

マクロ環境・注目点		金融政策見通し			資産価格見通し(6ヵ月程度)		
		現在	2026Q3	2026Q4		下限	上限
米国	<p>底堅い成長と粘り強いインフレが併存。エネルギー価格上昇はリスクだが、耐性高い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物価上昇は個人消費に逆風だが、雇用環境の底堅さで堅調維持。企業の設備投資は減税効果等を背景に増勢継続。実体経済は緩やかな成長基調。物価は財・サービス高で高止まり ●地政学リスクによる原油高や金融環境の変化による景気下押し圧力に警戒。FRBの金融政策の行方とインフレ趨勢への注目 	3.5-3.75	3.5-3.75	3.25-3.5	10年国債	4.00	4.50
		・10-12月期追加利下げ			S & P500	6,700	8,300
日本	<p>緩やかな回復が継続も、引き続き、エネルギー価格が焦点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雇用環境の安定と賃上げに支えられ、個人消費は底堅く推移。企業業績は堅調で、設備投資は増加基調を維持。インフレ率は政府の物価抑制策の効果もあり、足元では鈍化 ●エネルギーインフレの長期化、その波及効果に警戒、為替市場と日銀の金融政策対応を注視 	0.75	1.00	1.25	10年国債	2.00	2.70
		<ul style="list-style-type: none"> ・6月 or 7月に25bps、12月に追加利上げ ・緩やかな利上げ局面が継続 			日経平均	51,100	65,200
					ドル円	145.0	165.0
欧州	<p>実体経済は底堅いが、エネルギー主導のインフレ加速と成長下押しにリスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ●個人消費は低失業率と賃上げを背景に底堅く推移する一方、物価上昇による購買力低下で伸びは鈍化。企業の設備投資は政策支援もあり緩やかな増加基調。外需の鈍化とエネルギー価格急騰が成長の重石となり、経済成長は足踏み気味。インフレ率はエネルギー高を背景に高止まり ●世界経済の不透明感からスタグフレーション懸念も浮上。ECBの金融政策動向を注視 	2.00	2.25	2.25	10年国債	2.60	3.20
		<ul style="list-style-type: none"> ・6月に利上げ 			DAX	23,600	29,600
					EURUSD	1.10	1.21
中国	<p>景気減速。デフレ傾向緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> ●個人消費は緩やかな回復段階で、設備投資は不動産低迷を背景に弱含み。輸出は対米摩擦緩和や新興国需要に支えられ堅調に推移。伴って、デフレ圧力は緩和傾向 ●不動産市場の低迷、世界経済の不透明感による景気下押しリスクに警戒。国内需要の回復持続力や中国人民銀行の金融政策動向を注視 	1.40	1.30	1.30	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; position: relative;"> </div>		
		<small>※7日物リバースレボ金利</small> <ul style="list-style-type: none"> ・「穏健かつ柔軟な緩和」方針のもと、年内、追加緩和 ・人民元相場は、実効ベースで安定推移 					

■当資料は、情報提供を目的として、CCIアセットパートナーズが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
 ■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
 ■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
 ■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。